

ビスフォスフォネート系薬剤と歯科治療

骨粗鬆症や腫瘍の治療で薬剤の投与を受けている方へ

～ 顎骨壊死・顎骨骨髄炎に関する注意 ～

こんな薬を飲んでいませんか？

飲み薬



ダイドロネル



フォサマック



ボナロン



アクトネル



ベネット

注射剤



アレディア

オンクラスト

ティロック

ビスフォナール

ゾメタ

これらは骨粗鬆症等の骨の病気や腫瘍の治療で使われる薬で、ビスフォスフォネート系薬剤といいます（略称：BP系薬剤）。最近、この薬を使った治療を受けている方の中で、歯科治療やお口の不衛生に関連して、顎（あご）の骨が部分的に死んだり（顎骨壊死）、腫れが長期化する（顎骨骨髄炎）ことが報告されています。

1. 顎骨壊死(がっこつえし)とは？

骨壊死とは「骨が死んでしまうこと」の意味で、血液の流れの減少や骨の再生能力に問題がおきることによって発症すると考えられています。まれにはありますが、骨粗鬆症・腫瘍などの治療のためBP系薬剤を服用中の方に顎骨壊死が発症しています。また骨に関係した歯科治療や疾患などで、その症状がより悪くなる可能性があります。

2. 顎骨壊死の症状は？

顎の痛み

しびれ感、重い感じ、その他の異常感覚

顎の腫脹（はれ）

歯がグラグラする、膿（うみ）が出る

歯肉から骨が露出している（黄色みをおびて硬い）



矢印は顎骨壊死になった箇所
下顎の骨に欠損が見られる



歯肉から露出した下顎の骨

3. どのような歯科治療に注意が必要ですか？

顎骨壊死の発症する危険性は基本的に非常に低いものですが、抜歯やインプラント等の歯科治療において危険性が高くなると言われています。

4. 歯科治療の際に、薬の服用をやめるべきですか？

服用をやめるかどうか、歯科治療を行うかどうかは治療の体への影響や全身の状態等が考慮されます。なぜなら骨粗鬆症や腫瘍の治療におけるBP系薬剤の役割は重要だからです。薬剤を処方した主治医と情報交換を行うこともあります。

BP系薬剤は一度服用すると長期間体内に残ることが知られています。

BP系薬剤の投与を受けている、または受けたことのある方は歯科診療の前に必ず申し出て下さい。今後歯を抜くような疾患を予防するためにも、お口の中を清潔に保ち、定期健診を受けましょう。